

事故事例からみる カーブ走行の落とし穴

カーブでは車を外に押し出そうとする遠心力が働くため、それを無視したスピードで通過しようとするとな非常に危険です。また、見通しの悪いカーブは、形状やきつさを的確に判断することは難しく、そのことが原因となる事故も発生しています。今回はカーブ事故の実態とカーブ走行での注意点を解説します。

カーブ事故の実態

カーブでの事故件数は全事故の3.4%にすぎませんが、死亡事故だけを見ると14.6%と約4倍も高くなります(図1)。死亡事故につながる可能性が高くなる理由としては、衝撃力が大きい正面衝突事故が多いことが考えられます。カーブで車両同士の死亡事故は298件ですが、そのうち正面衝突事故は239件と約80%を占めています(図2)。このようにカーブ事故は重大事故につながる危険性が非常に高く、運転者は十分に注意する必要があります。

図1 カーブ事故が占める割合(平成20年)

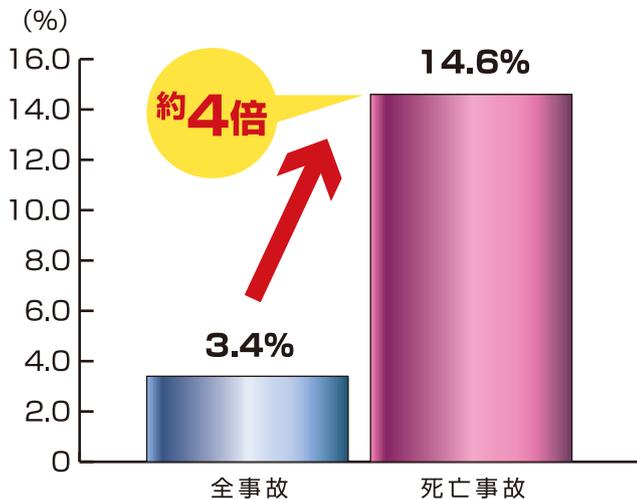
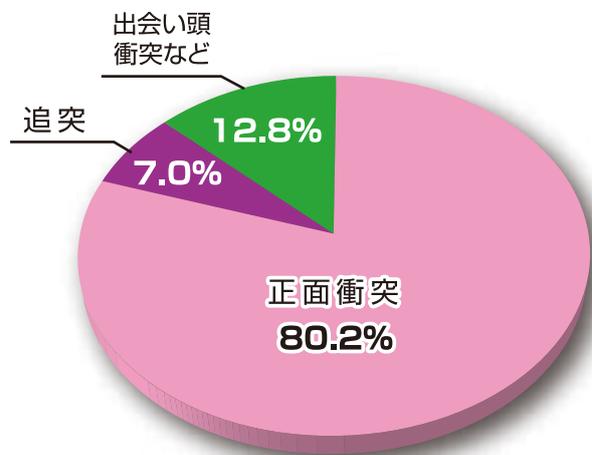


図2 カーブでの車両同士の死亡事故の割合(平成20年)



カーブ走行の注意点

カーブで正面衝突事故が発生しやすい理由はセンターラインを越えてしまうことが原因です。左カーブの場合、自車線が広く見えることでスピードを出しすぎ、曲がりきれずにセンターラインを越えてしまうことが少なくありません。

また右カーブの場合、少しでも直線的に走行しようと考え、センターラインをまたぐカッティング走行をしてしまいがちになります。

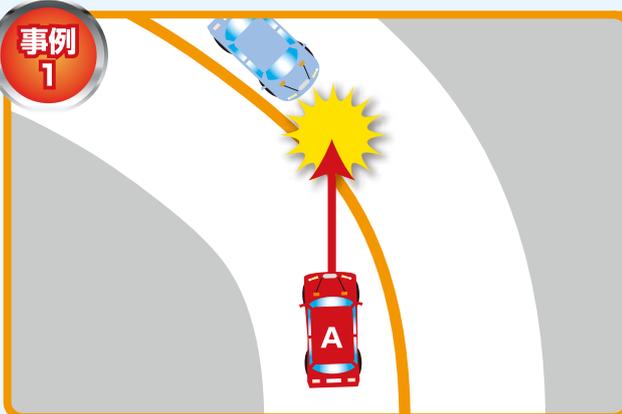
カーブでは次のことに注意しながら、スローイン、キープレフトなど基本的に忠実な運転をしましょう。

- ①スピードを出しすぎない。
- ②カッティング走行をしない。
- ③標識等で道路の先を読む。
- ④カーブミラーを過信せず、目視でしっかり確認する。
- ⑤路面状態も視野に入れる。



カーブでの典型的な事故事例

事例
1



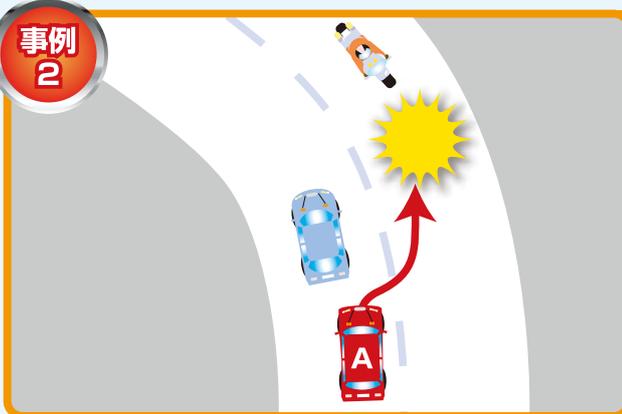
対向車線にはみ出し正面衝突

Aは急ぐあまり、スピードをあまり落とさずに左カーブに進入したところ、センターラインを越えてしまい対向車と衝突。

こうして事故を防ぐ

カーブ手前で確実にスピードを落とすことが大原則です。カーブのきつさを標識などで予測し、進入前にしっかりスピードを落とし、キープレフトを守って走行しましょう。

事例
2



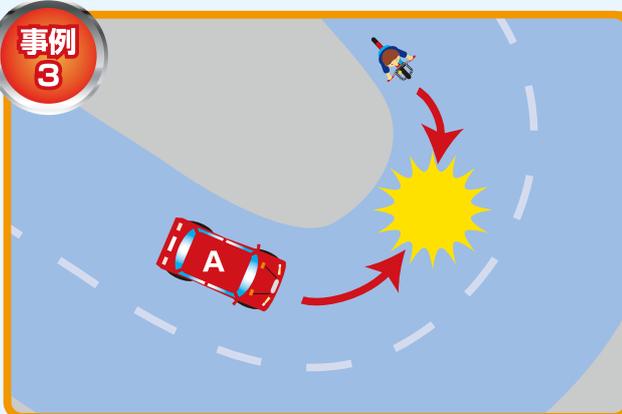
前車を追い越そうと対向車線に出たとき 二輪車と正面衝突

Aはゆっくり走行する前車にイライラし、カーブで追い越しをかけたところ、対向車線を走ってきた二輪車と衝突した。

こうして事故を防ぐ

カーブでは常に対向車の存在を予測しておくこと。とくに二輪車は見落としやすいのでしっかり確認しましょう。カーブでの追い越しは自殺行為だと肝に銘じ絶対に行わないようにしましょう。

事例
3



薄暮時、見通しの悪い左カーブで 右側通行の自転車と衝突

Aは夕方会社に戻る途中、見通しの悪いカーブに差し掛かったが、注意を払わずに進入したところ、右側通行の自転車と衝突した。

こうして事故を防ぐ

自転車は法令遵守の意識が低く、右側を通行してくることが多々あります。事故を防ぐには、早めにライトを点灯し、自転車の発見に努めるとともに、自車の存在を目立たせましょう。



東京海上日動リスクコンサルティングの自動車事故削減プログラム

東京海上日動リスクコンサルティングでは、カメラ付きドライブレコーダを使用した自動車事故削減プログラム(法人向け)をはじめ各種事故削減メニューを取り揃え、ご提供しております。詳しくは、03-5288-6586(担当:西村・阿部)までお問い合わせください。HP(<http://www.tokiorisk.co.jp/>)

ご用命・ご相談は…

「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。

保険システム株式会社
INSURANCE SYSTEM CO.LTD

〒950-0087
新潟市中央区東大通2-4-1 新潟パナソニックビル6F
TEL 025-243-7374 FAX 025-243-0921
E-MAIL yasuragi@hokensystem.co.jp
URL <http://www.hokensystem.co.jp>

東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内1-2-1
TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590
URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課